

## 1. 研究の背景

申請者（野津）はNPO法人「ママの働き方応援隊」と協働し、2017年度より、神戸市子ども家庭局の「若者の結婚出産応援事業」を受託し、神戸市内の10数大学で「赤ちゃん先生クラス」を実施してきた。

このクラスでは学生が赤ちゃんおよびその母親に直接交流することで、①命への共感力を高めること、②結婚・妊娠・出産・子育てについての知識・関心を深めること、③母親の結婚・妊娠・出産・子育ての実情を聞き、交流することで、自分の将来について「結婚・妊娠・出産・子育てを含めたキャリア形成」を考えるための参考モデルを学習することをねらいとしてきた。

また、日本でも稀少な赤ちゃんと母親が活躍する教育系NPOと大学が連携することで、ユニークで教育効果の高い大学キャリア教育の開発をめざしてきた。

しかし、2020年からのコロナ禍で対面式のクラス開催は困難となった。

そこで、オンライン型の赤ちゃん先生クラスを複数回実施して、クラスの内容や実施方法を開発することとした。

また、赤ちゃん先生クラスをより効果的な大学生向けのキャリア教育として発展させるために、クラス効果を調査を通して分析し、新たなクラス実施モデルを開発することも合わせて行うこととした。

## 2. 研究実績・成果

### ①クラス開催の実績（全7回、オンラインで実施）

2020年9月1日 神戸大学 参加学生15人

2020年10月27日 金城学院大学（名古屋） 参加学生12人

2020年11月12日 神戸松蔭女子学院大学 参加学生62人

2020年12月1日 神戸女子短期大学 8人

2020年12月4日 神戸学院大学 7人

2021年1月19日 兵庫県立大学（国際地域研究1） 参加学生12名

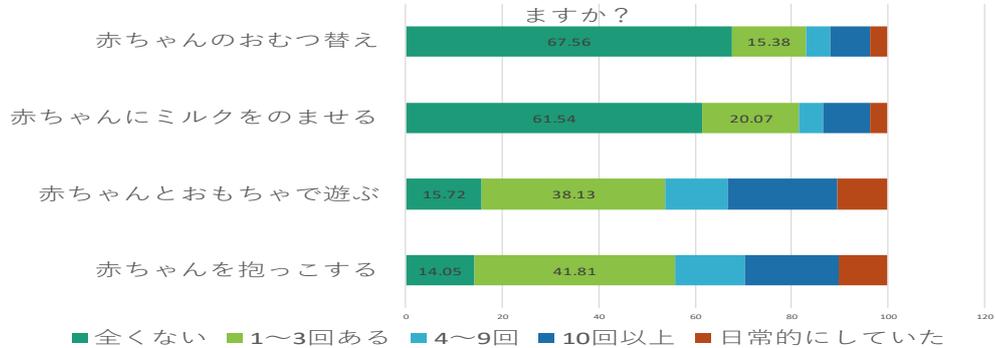
2021年6月29日 兵庫県立大学（グローバル市民社会論）参加学生14名

### ②事前・事後アンケートの結果（一部抜粋）

クラス参加の学生にクラス開催前と開催後にアンケートを行った。次のグラフはその一部である。

事前アンケートでは、「今までの赤ちゃんとの交流経験」について尋ねた。その結果、「おむつがえ」「ミルクを飲ませる」経験は、6割以上がまったくしたことがないと答えた（図1参照）。

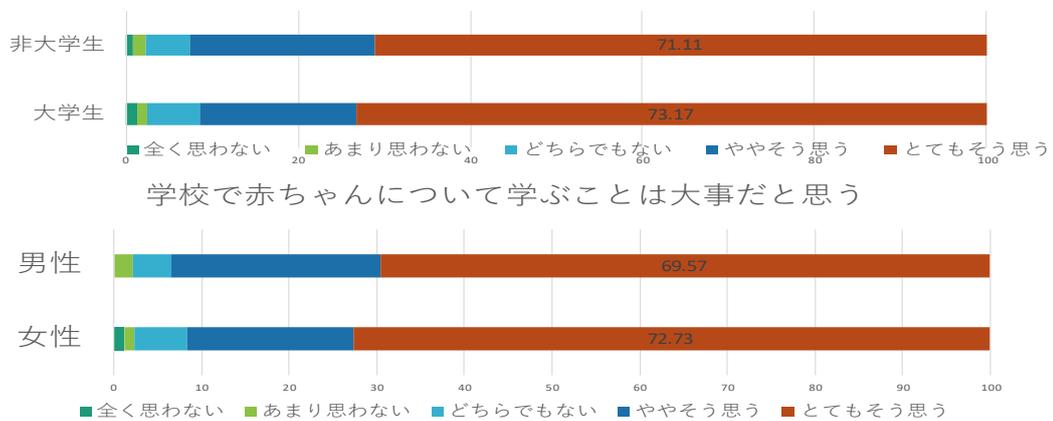
図1. あなたは以下の事を今までにどのくらいしたことがありますか？



### ③クラス実施の成果

事後アンケートでは、「赤ちゃんについて学ぶことの意義」を尋ねた。その結果、7割以上の回答者がとてもそう思うと回答した。赤ちゃん先生クラスの開催によって、大学生たちは、赤ちゃんについて多くのことを学んだことが分かる（図2参照）。

図2 学校で赤ちゃんについて学ぶことは大事だと思う



### ③今度後の展望

アンケート結果によって、オンラインクラスによっても対面クラスと同じ程度にクラス実施の効果があることが分かった。この結果をふまえて、次年度（2021年度）も継続してクラス実施と調査を進めたい。特に、クラス参加への関心・意欲・理解で男女差（ジェンダ―格差）が想定されるので、男女差（ジェンダ―格差）を調査によって解明していきたい。